8791A形
16ビット I/O
インターフェース　アダプタ
取扱説明書

菊水電子工業株式会社

ー 保証 ー

この製品は、菊水電子工業株式会社の厳密な試験・検査を経て、その性能が規格を満足していることが確認され、お届けされております。

弊社製品は、お買上げ日より１年間に発生した故障については、無償で修理いたします。但し、次の場合には有償で修理させていただきます。

1. 取扱説明書に対して誤ったご使用および使用上の不注意による故障・損傷。
2. 不適当な改造・調整・修理による故障および損傷。
3. 天災・火災・その他外部要因による故障および損傷。

なお、この保証は日本国内に限り有効です。

ー お願い ー

修理・点検・調整を依頼される前に、取扱説明書をもう一度お読みになった上で再度点検していただき、なお不明な点や異常がありましたら、お買上げもとまたは当社営業所にお問い合せください。

目　　　　次

1. 概　　要

菊水電子8791A，16ビットI/Oインターフェースアダプタは8ビットまたは16ビットによる高速並列転送を波形記憶装置8700シリーズと外部機器との間で行うためのインターフェースアダプタです。

並列転送データはバイト単位（8ビット）またはワード単位（16ビット）で双方向転送を行います。

データ転送機能としては，

書込み時にどのメインフレームのどのチャンネルのどの場所に書込んだらよいか，または読出し時にどのメインフレームの，どのチャンネルのどの場所に記録されているデータを読出せばよいかの情報であるアドレスデータの転送。

波形記憶装置のメモリーに直接書込もうとするデジタル信号からなる書込みデータの転送。

波形記憶装置のメモリー内に記録されていて，直接読出そうとするデジタル信号からなる読出しデータの転送。

波形記憶装置のサンプリング速度の設定，レコード，リード，トリガ等のリモートコントロール信号である，コントロールデータの転送。

以上のデータ転送を外部機器（CPU等）が主体性をとって1パルス毎に1データ（ワード単位またはバイト単位）の転送を行います。

また波形記憶装置から外部機器への出力データか，外部機器から波形記憶装置への入力データかの識別信号，波形記憶装置がいかなる状態にあるかを外部機器へ知らせる識別信号および現在扱っているデータがいかなる種類のものかを波形記憶装置に知らせる識別信号などの処理機能も持っています。

本インターフェースアダプタは通常波形記憶装置メインフレームの後部に取り付けられ，電源はメインフレームから供給されます。

外部機器との接続はアンフェノール社57シリーズ50コンタクトコネクタを用いて接続し，YHP社の9825A，9845B パーソナルコンピュータ用16ビットI/Oインターフェース98032A 標準インターフェースケーブルとバスコンパチブルに設計されています。

2. 仕　　様

2.1 品　　名　　16ビット I/O インターフェース アダプタ

2.2 形　　名　　8791A

2.3 インターフェース入出力データ

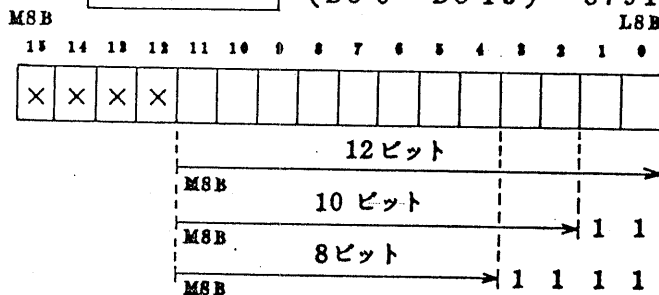
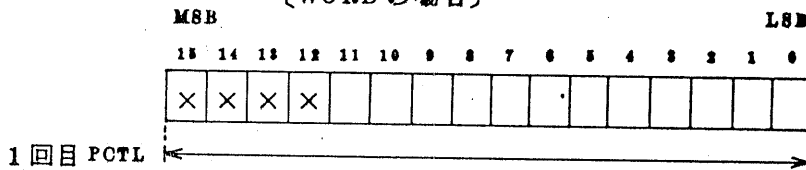
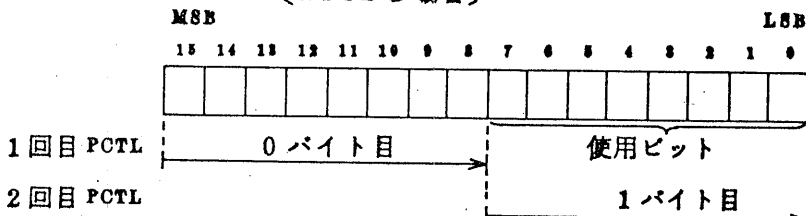
アドレスデータ　波形記憶装置のメインフレーム8701Aはタイミングコントロールユニットの他には，1ユニットしか挿入できませんが，8702Aメインフレームは，タイミングコントロールユニットの他に4ユニットを挿入することができます。

また，8702Aではタイミングコントロールユニット用挿入位置（チャンネル）のとなりからCH(チャンネル)Ⅰ，CHⅡ，CHⅢ，CHⅣと順にチャンネル番号が4ユニット挿入分ついています。

したがって記憶場所は各チャンネル単位で内蔵され，さらに2台のメインフレームをコントロールする場合は各メインフレーム単位の指定と，そのチャンネル指定およびチャンネル内の記憶場所のアドレス指定の情報をアドレスデータとします。

書込みデータ　波形記憶装置の記憶部（メモリー）にCPUや外部装置からデジタル信号の形で書込まれるデータであり，データのビット数は12ビット，10ビットおよび8ビットのいずれかによります。

読出しデータ　波形記憶装置のメモリーに記憶されているデータをCPUや外部装置に，デジタル信号の形で読出されるデータであり，データのビット数は，16ビットまたは8ビットのいずれかによります。

8791A
3 / 頁
2.4 データ フォーマット
読出しデータ
(DO 0～DO 15)·····8791A→外部機器(I/O→"0")
MSB
LSB
15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
12ビット
10 ビット
8ビット
1 1
1 1 1 1
A/D変換器ビット数
により12,10,8ビット
と選択する。
〔WORDの場合〕
1回目PCTL
〔BYTEの場合〕
0バイト目
使用ビット
2回目PCTL
1バイト目
書き込みデータ
(DI 0～DI 15)·····外部機器→8791A(I/O→"1")
CTL
CTL1
"0"
"0"
承認
校正
作成
年月日
仕様番号
S 822378
新東電子工業株式会社
取扱説明書書式
NP-3263B
810100-50SK19

アドレスデータ　(DI 0〜DI 15)・・・・外部機器→8791A(I/O→"1")

CTL 0 "0"　　CTL 1 "1"

MSB　　LSB

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

× C_2 C_1 C_0

チャンネル選択

4k語

0　2k語

0 0　1k語

〔WORDの場合〕

MSB　　LSB

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

1回目 PCTL

〔BYTEの場合〕

MSB　　LSB

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

1回目 PCTL　0バイト目

2回目 PCTL　使用ビット　1バイト目

チャンネル選択

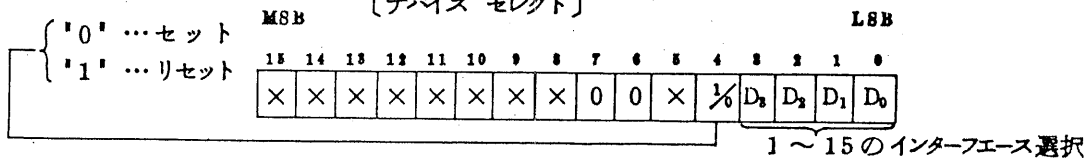
メインフレーム(S)インターフェース無し：あき｜I｜II｜III｜IV

接続ケーブル

入出力ユニット

メインフレーム(M)インターフェース付：タイミングコントロールユニット｜I｜II｜III｜IV

チャンネル＼ビット	MSB 15	14	13	12
M − I	×	0	0	0
M − II	×	0	0	1
M − III	×	0	1	0
M − IV	×	0	1	1
S − I	×	1	0	0
S − II	×	1	0	1
S − III	×	1	1	0
S − IV	×	1	1	1

"0"インターフェースの接続されているユニット
"1"インターフェースの接続されていないユニット

マルチプレクッサの場合

モード	アドレス対応			
SINGLE	0〜4095			
DUAL	0〜2047		2048〜4095	
QUAD	0〜1023	1024〜2047	2048〜3071	3072〜4095
1,2,3,4	1 0〜1023	2 1024〜2047	3 2048〜3071	4 3072〜4095

コントロールデータ　　CTL 0 "1"　CTL 1 "1"

〔デバイス セレクト〕

"0"・・・セット
"1"・・・リセット

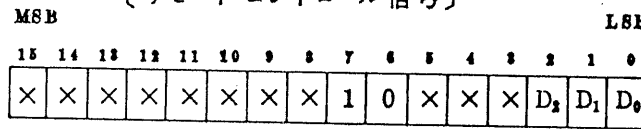
MSB　　LSB

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

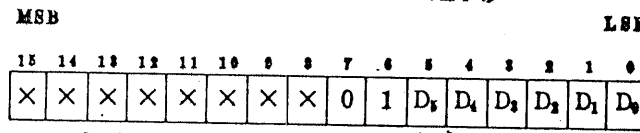
× × × × × × × × 0 0 × S/R D_3 D_2 D_1 D_0

1〜15のインターフエース選択

〔リモート コントロール信号〕

MSB 15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0 LSB
×	×	×	×	×	×	×	×	1	0	×	×	×	D_2	D_1	D_0

D_2	D_1	D_0	発生信号
0	0	0	バイト指示
0	0	1	レコードSTART
0	1	0	リードSTART
0	1	1	システムリセット
1	0	0	EXT・マニュアル・TRIG

〔EXT・サンプリングクロック選択〕

MSB 15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0 LSB
×	×	×	×	×	×	×	×	0	1	D_5	D_4	D_3	D_2	D_1	D_0

D_5：
"1"のとき EXT・SAMP
"0"のとき EXT・SAMP 解除

（　　）内は高速Bタイプ

D_4	D_3	D_2	D_0 1 / D_1 1	D_0 0 / D_1 1	D_0 1 / D_1 0	D_0 0 / D_1 0
1	1	1	1 μs (50ns*)	2 μs (100ns*)	5 μs (200ns*)	――
1	1	0	10μs (500ns)	20μs (1μs)	50μs (2μs)	――
1	0	1	100μs (5μs)	200μs (10μs)	500μs (20μs)	――
1	0	0	1 ms (50μs)	2 ms (100μs)	5 ms (200μs)	――
0	1	1	10ms (500μs)	20ms (1ms)	50ms (2ms)	――
0	1	0	100ms (5ms)	200ms (10ms)	500ms (20ms)	――
0	0	1	1 s (50ms)	2 s (100ms)	5 s (200ms)	――
0	0	0	――	――	――	EXT・SAMPL CLOCK

＊ 注）の高速Bタイプでは読出しクロックは＊印の個所はすべて500nsとなります。

ステータスデータとコントロール信号

〔I/O〕 "0"；波形記憶装置 $\xrightarrow{\text{データ}}$ 外部装置
"1"；波形記憶装置 $\xleftarrow{\text{データ}}$ 外部装置

〔CTL0, CTL1〕…データの識別

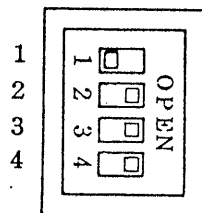
	CTL 1	CTL 0	機　　能
0	0	0	書込みデータ
1	0	1	予　備
2	1	0	アドレスデータ
3	1	1	コントロールデータ

〔STI 0，STI 1〕····波形記憶装置の状態識別

	STI 1	STI 0	機　　能
0	−	0	レディー（ACCESS可能）
1	−	1	ビジィー（REC 中）
2	1	−	電源　ON
3	0	−	電源　OFF

デバイスセレクトコード　（8791A デバイスセレクトスイッチ）

ADDRESS
（ON）0　1（OFF）

1
2
3
4
OPEN

左記の例はデバイスNO.1にセットした状態。
セット数は1〜15まで。
全てOFF（0，0，0，0）は常時選択状態。

2.5　データ転送速度　　1ワード約8 μsec

2.6　インターフェース接栓　　アンフェノール社57シリーズ50コンタクトレセプタクル

2.7　使用温度範囲　　5℃〜35℃，　85%以下

2.8　最大動作温湿度範囲　　0℃〜50℃，　90%以下

2.9　保存温湿度範囲　　−10℃〜60℃，90%以下

2.10 電　源　　消費電流；DC＋5V±5% 約1.3A（定常時）

2.11 寸　法　　160（W）×187（H）×45（D）mm

2.12 重　量　　約 0.5 kg

2,13 付属品　　取り付け用スペーサー（長）··········· 4
取り付け用スペーサー（短）··········· 4
取り付け用ビスM3　················ 8
取扱説明書　··························· 1

3. 使用前の注意事項

3.1 着荷開封検査の依頼

本アダプタは工場を出荷する前に，機械的ならびに電気的に十分な試験検査を受け，正常な動作を確認し保証されています。

お手もとに届きしだい，輸送中に損傷を受けていないかを，お確めください。

なお，万一不具合がございましたらお買求め先にお問い合わせください。

3.2 電　源

本アダプタは8701A，8702Aなどのメインフレーム後部に取り付けて，メインフレームから+5Vの直流安定化電源の供給を受けて正常動作を行ないます。

メインフレームは単相100V±10V，50/60Hzの商用電源で動作します。

電源電圧が高すぎたり，低すぎたりしますと，メインフレームからの安定化電源を得られずに故障の原因となりますのでAC100V±10Vの範囲をお守りください。

またメインフレームには電源雑音防止回路が装備されていますが，万一限度を越えた雑音が入りますと，誤動作等をおこすことがあります。

雑音発生源と思われる機器近くから遠ざけるとともに電源を分離してください。

なお本アダプタが所定の場所へ完全に固定されていることを確めてください。

また本アダプタをメインフレームから取り外したり，本アダプタのカバーを取り外す場合はメインフレームの電源を必らずOFFにしてください。

本アダプタをメインフレームに取り付ける場合は4個のコネクタ（CN-7，CN-8，CN-9　，CH-10）を間違えずに接続し，さらにコネクタ接続線が，取り付け部や，メインフレーム後面板とカバー間にはさまれないことを確認してから取り付けてください。

3.3 周囲環境

メインフレームに取り付ける本インターフェースアダプタやメインフレームに挿入する各ユニットには多数の集積回路を使用しております。

回路の発熱を発散させるために通風孔やファンの吹出し口をふさがないでください。

またメインフレームの下や近くに熱源となるような他の装置を配置しないようにご配慮ください。

なお本波形記憶装置にはタイミングクロックとして高速のデジタルクロック発生器やスイッチング方式の安定化電源が内蔵されております。

これらの回路から外部へおよぼすEMI（電磁波障害）に関しては可能な限りの配慮をしてありますが万一，悪影響が出ましたら，被障害機器を本装置から遠ざけるとともに電源を分離してください。

3.4 グランド関係

本アダプタをメインフレームに取り付けますと本アダプタのカバーはメインフレームのシャーシグランドに接続されます。

また本アダプタを含めて波形記憶装置のシャーシグランドと各信号グランドはフローティングされています。

シャーシはAC電源入力の接地側と一体となることが理想的です。

シャーシグランドと信号グランド間にインパルス雑音が入らぬようにしてください。

3.5 出力信号接栓

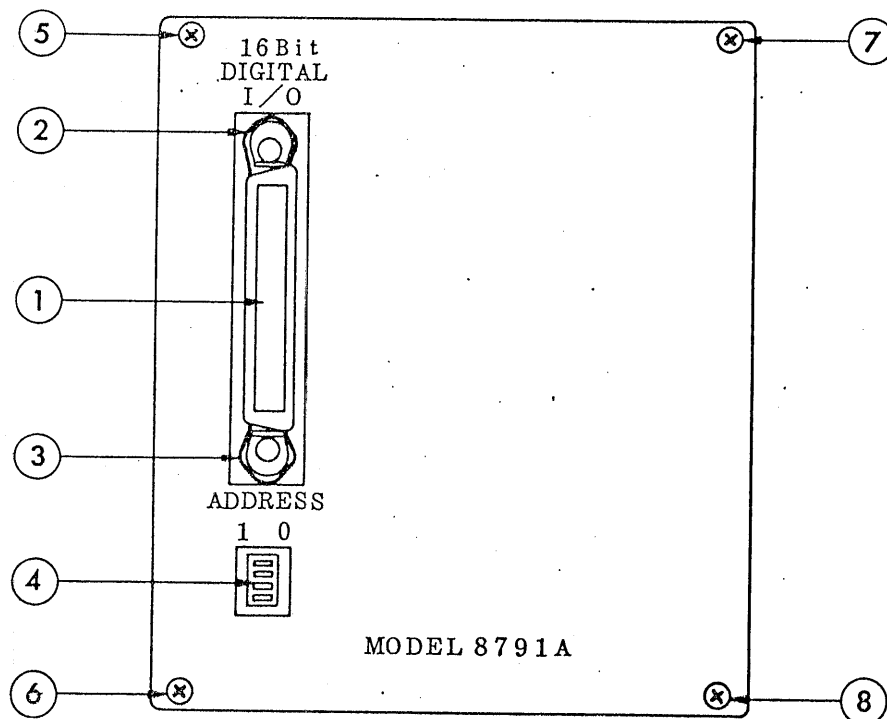
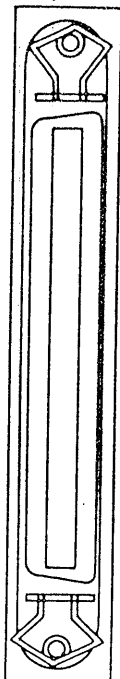
本アダプタを含めて，各ユニット，メインフレームからなる波形記憶装置には，アナログ，デジタルまたインターフェース信号など各種の出力信号接栓があります。

これらの出力信号接栓に外部から低インピーダンスの電圧を加えたり，短絡させたりしますと故障の原因となりますのでご注意ください。

3.6 その他

本インターフェースアダプタの性能仕様については製品の改良を行うために，ことわりなく変更する場合があります。

4. 使 用 法

4.1 操作部の説明

①「16Bit DIGITAL I/O」, ②, ③, プラグロックスプリング

インターフェースケーブルプラグを接続するためのレセプタクルで，本インターフェースアダプタは現在一般にひろく使用されているアンフェノール社の 57 シリーズ 50 コンタクトコネクタを採用しています。

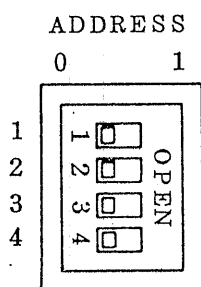
このレセプタクルにプラグを接続する場合は，アンフェノール社の 57 シリーズ 50 コンタクトのプラグを使用してください。

本インターフェースアダプタの電気的仕様およびに機能的仕様は，YHP 社の 16 ビット I/O インターフェース 98032A(YHP社のコンピュータ 9825A, 9825A/S, システム 35, システム 45 に共通使用可能）の仕様に準拠しています。

①の信号ラインのコネクタピン配列についても，YHP 98032A の標準インターフェースケーブルに準拠しています。

たとえばYHP 9825Aコンピュータをコントローラーとします。このインターフェースアダプタを取り付けた波形記憶装置を，周辺機器の中に加えることができます。

①の機械的接続に際しては②，③のロックスプリングを使用して本インターフェースアダプタのレセプタクルとケーブルに付いているプラグを接続します。

④「ADDRESS」

YHP 98032A を用いたシステムにおいては始めにバスラインに接続されている各種の周辺機器に背番号であるセレクトコード（デバイスセレクトコード）という識別コードを設定しなければなりません。

これらの各機器は各々性質や目的が異なりますので，使用するシステムに応じてセレクトコードは正しく設定しなければなりません。

YHP 98032A においては，0～16 のセレクトコードを持ち，割込み動作において2種類の割込み優先順位を持ちます。

2～7のセレクトコードは割込み順位が低く，8～15のセレクトコードは割込み順位が高くなっています。2～7，8～15の中での優先順位はセレクトコードの大きいインターフェースがより高くなります。

また YHP 9825A コンピュータ使用においては，0,1,16 のセレクトコードはコンピュータ内蔵の周辺機械に使用しています。

また同じセレクトコードは2ヶ以上設定することはできません。

本インターフェースアダプタのセレクトコードは④「ADDRESS」の4ビットデジスイッチによって2進数（バイナリー）コード1～15まで（0を除く）設定ができます。

⑤，⑥，⑦，⑧ インターフェースアダプタカバー取り付けビス

この4本のビスによりインターフェースアダプタカバーが，インターフェース基板を保護するために，メインフレームに取り付けてあります。

このビスを外すとカバーが外れて内部の他の4本のビスによりインターフェース基板がメインフレームに取り付けられています。

4.2 YHP 98032A 16ビットI/Oインターフェースの概要(8791A準拠)

このインターフェースはYHPのコンピュータ(9825A,9825A/S,システム35,システム45)と周辺機器の間で16ビットのデータの入出力を行えます。

8791Aの場合はバイト単位(8ビット)とワード単位(16ビット)を扱います。

つまり,16ビット以下のデータの並列転送が行えます。

98032Aはデータの転送を全二重モードでの実行が可能で,データの入出力ラインは単独になっています。

つまり,出力ラインにデータを保持した状態でデータの入力ができます。

接続に要する信号線はつぎのようになっています。

① YHP 98032Aのデータ入力ライン数⇐8791Aのデータ出力ライン数=16本
YHP 98032A(DI 0〜DI 15) ⇐ 8791A(DO 0〜DO 15)

② YHP 98032Aのデータ出力ライン数⇒8791Aのデータ入力ライン数=16本
YHP 98032A(DO 0〜DO 15)⇒ 8791A(DI 0〜DI 15)

③ ハンドシェークライン=3本
PCTL,PFLG,およびI/O

④ ペリフェラルコントロールライン=2本
CTL 0およびCTL 1

⑤ ペリフェラル ステータスライン=3本
PSTS および STI 0, STI 1

⑥ DMA(DIRECT MEMORY ACCESS)割込み要求ライン=1本
EIR

⑦ ペリフェラル リセットライン=1本
PRESET

⑧ シールド,接地ライン

以上のインターフェス信号によってデータの転送が行なわれます。

つぎにこれらのラインについて順に説明していきます。

① データ入力ライン(DI 0〜DI 15)……98032A

このラインは，8791A側ではDO 0〜DO 15に相当します。つまり，コンピュータ側の入力ラインは波形記憶装置インターフェースアダプタ側では出力ラインにあたるからです。

16ビット分あるデータ入力ラインは必要に応じて2個の8ビットバイト又は1個の16ビットワードのデータとして使用できます。

98032Aでは全データラインは入力レジスタにラッチされます。またDI 0〜DI 15(98032A)のうちDI 0がLSBでDI 15がMSBに相当します。

② データ出力ライン(DO 0〜DO 15)……98032A

このラインは8791A側ではDI 0〜DI 15に相当します。つまり，コンピュータ側の出力ラインは波形記憶装置インターフェースアダプタ側では入力ラインにあたるからです。

16ビット分あるデータ出力ラインは必要に応じて2個の8ビットバイト又は1個の16ビットワードのデータとして使用できます。

98032Aではバイトモードの時はコンピュータから送られてくる16ビットのうち8ビットだけがラッチされます。

またDO 0〜DO 15(98032A)のうちDO 0がLSBで，DO 15がMSBに相当します。

③ ハンドシェークライン　PCTL，PFLG．I/O

○ PCTL(Peripheral Control)はPFLGと組合わせてコンピュータと周辺機器との同期をとるために使用されます。

PCTLにはセットとクリアの状態があり，周辺機器はPFLGをready → busyに転位させることによりPCTLをクリアします。

PCTLは98032Aの出力データがおちついてから一定の遅延時間を経過した後に出力されます。

○ PFLG(Peripheral Flag)はデータ転送を完了するためにPCTLと組合わせで使われます。

○ I/Oは使用しない場合もあります。データ転送が入力か出力かを示すものでPCTLがセットされている間は入力であれば'HI'出力であれば'LOW'の状態を保っています。

④ ペリフェラルコントロールライン　CTL 0, CTL 1

これら2本のラインは使用しない場合もありますが，周辺機器をコントロールするためにどのような用途にも使用できます。

このラインはラッチされコントロールレジスタに出力することによってセット='1'='LOW'，クリヤ='0'='HI'が可能です。

電源 ON直後のこの2ビットは不定です。

⑤ ペリフェラルステータスライン　PSTS，STI 0, STI 1

これらの3本のラインは使用しない場合もありますが，時によっては便利に使われることが考えられます。

○ PSTS(Peripheral Status) は周辺機器の状態が完全に OKであることを確認するために使用すれば，電源が ONしていない，インターロックが外れている，プリント用紙がないなどの各種異常状態をNot OKとしてコンピュータに返すことができます。

○ STI 0, STI 1 は周辺機器の状態を知るためのものでステータスレジスタの内容を読込むことによって2ビットの状態がわかります。

⑥ DMA割込み要求ライン　EIR

DMAの実行中EIR(External Interrupt Request)を使って，データブロックの転送が終了する前に割込みを行ったり，DMA転送を中止させることができます。

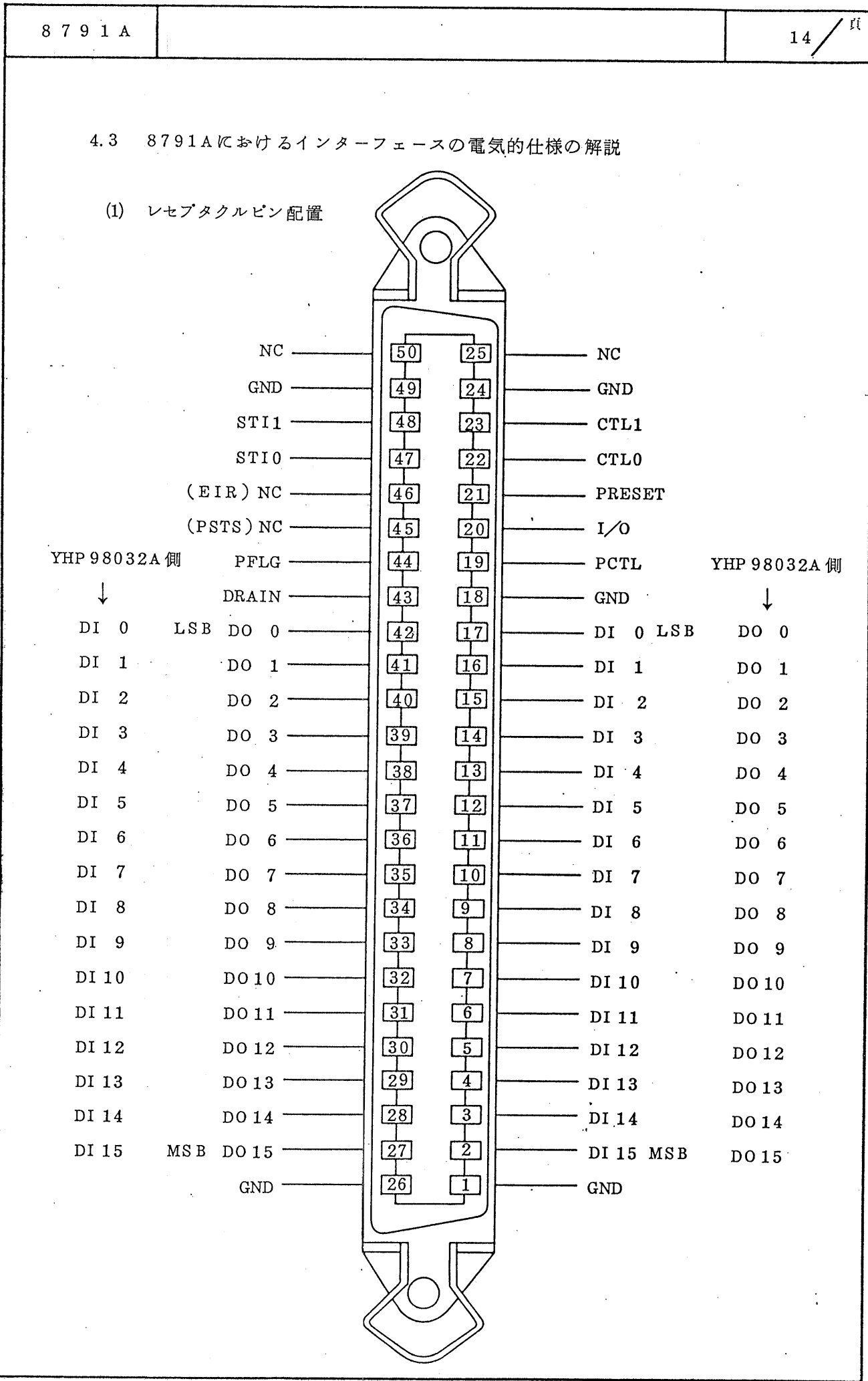
通常の割込み動作はPFLGを使って割込み要求を行います。

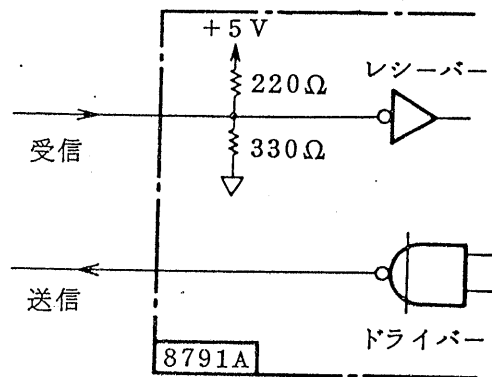
⑦ ペリフェラルリセットライン　PRESET

このラインは使用しないこともありますが，周辺機器を初期設定するために使用します。

コンピューターのRESETキーを押したり，コンピューターの電源を ONした時'LOW'パルスが発生します。

4.3　8791Aにおけるインターフェースの電気的仕様の解説

(1)　レセプタクルピン配置

(2) 論理レベル　　論理0 'HIGH状態'　+2.4V以上
　　　　　　　　論理1 'LOW状態'　+0.4V以下

(3) 信号線の終端

外部装置側の送受信回路も同等であること。

(4) ドライバー仕様　　SN7438相当オープンコレクター
　　　　　　　　'LOW' 状態出力電圧　+0.4V以下　48mA(MAX)
　　　　　　　　'HIGH' 状態出力電圧　+2.4V以上

(5) レシーバー仕様　　SN7404相当
　　　　　　　　+0.6V以下で'LOW' 状態
　　　　　　　　+2.0V以上で'HIGH'状態

(6) インターフェースケーブル長　1本で最大4.5mまで

(7) 動作可能台数　　同時15台まで

(8) データ転送速度　　1ワード転送に約8 μsec

4.4 インターフェースを用いた波形記憶装置の使用法

波形記憶装置をコンピュータ等を用いてコントロールしながらデータの書込み，解析を行う手順を順番を追って説明します。

(1) 前準備

コンピューターでコントロールのできない，パネル面等の操作（信号結合，入力レンジ，オフセットレベル，トリガー信号結合，トリガースロープ，トリガーレベル，書込みモード等）を入力信号波形を考慮して設定し，手動による書込み読出しの試験を行って見る。

(2) 書込み（標準リード／ライトモード）

レコードスタートを与えるとトリガー検出を待ち，トリガーを検出すると，入力信号の書込みを開始し，全メモリー書込み完了で停止します。

この際サンプリング速度の設定やトリガーパルスの発生はコンピューターによりコントロールできます。

書込み中はコンピューターは書込みの完了を待ちます。また波形記憶装置はレコードビジーをインターフェースに出し，レコードビジー解除によりPFLGを立てて，書込み完了をコンピューターに知らせます。

(3) 読出し（標準リード／ライトモード）

コンピューターは書込み時と同様にI/OバスのFLGの状態をチェックし，波形記憶装置に記録されているデータをコンピュータに読出します。

読出されたデータはあらかじめ決められた手順で処理（積分やピーク検出等の演算処理など）されます。

このようにしてコンピュータ等でデータの処理を行い，その結果を再び波形記憶装置のメモリーに書込み，D/A変換してモニターすることができます。

○ 割込みモード

上記の読出されたデータの処理はDMAモードがOFFの場合に設定され，PFLGが波形記憶装置によって示されますと，割込要求が発生し，プログラムの実行は波形記憶装置用のサブルーチンへ移ります。

サブルーチンでは波形記憶装置とのデータのやりとりで処理を実行します。

(4) DMA　DMA モードの設定の際は波形記憶装置が次のデータ転送が可能であることをPFLGによって示すことによりDMA転送要求が発生します。

DMA 転送要求は DMA データブロック中のワード毎に繰返して行われます。

最後の転送が終了すると，コンピュータは DMA モードを OFF にして割込みモードが設定されていれば割込み要求が発生します。

(5) 例　以上の様な動作の繰返しにより省力化した計測システムの実現が行えます。

例としては，

○ タイマー等により一定時間々隔でデータのとり込みを行う。

○ 電圧等をパラメータとし，被測定物に与えて，その応答を測定する。

○ 自動部品選別器と連動させ，データの記録とGO/NO 判定を行う。

4.5 波形記憶装置におけるデータフォーマットの解説

(1) アドレスデータ(DI 0～DI 15)

インターフェースアダプタから見た波形記憶装置は普通のメモリーと同じですから，データの記憶場所すなわちアドレスを指定してデータを読んだり書いたりします。

そして波形信号は連続と考えられますので，一番地毎にアドレスを指定しなおさなくともデータ読出し，または書込むごとにシーケンシャルにアドレスをインターフェース自身で進めることができます。

とうぜんランダムにアドレスを指定してアクセスすることもできます。

波形記憶装置はプラグインユニット方式であり記憶場所もユニット毎に分散しています。

したがって，アドレスの指定もユニット単位，メインフレーム単位の指定が必要となります。

次のような手順でアドレスデータの転送を行います。

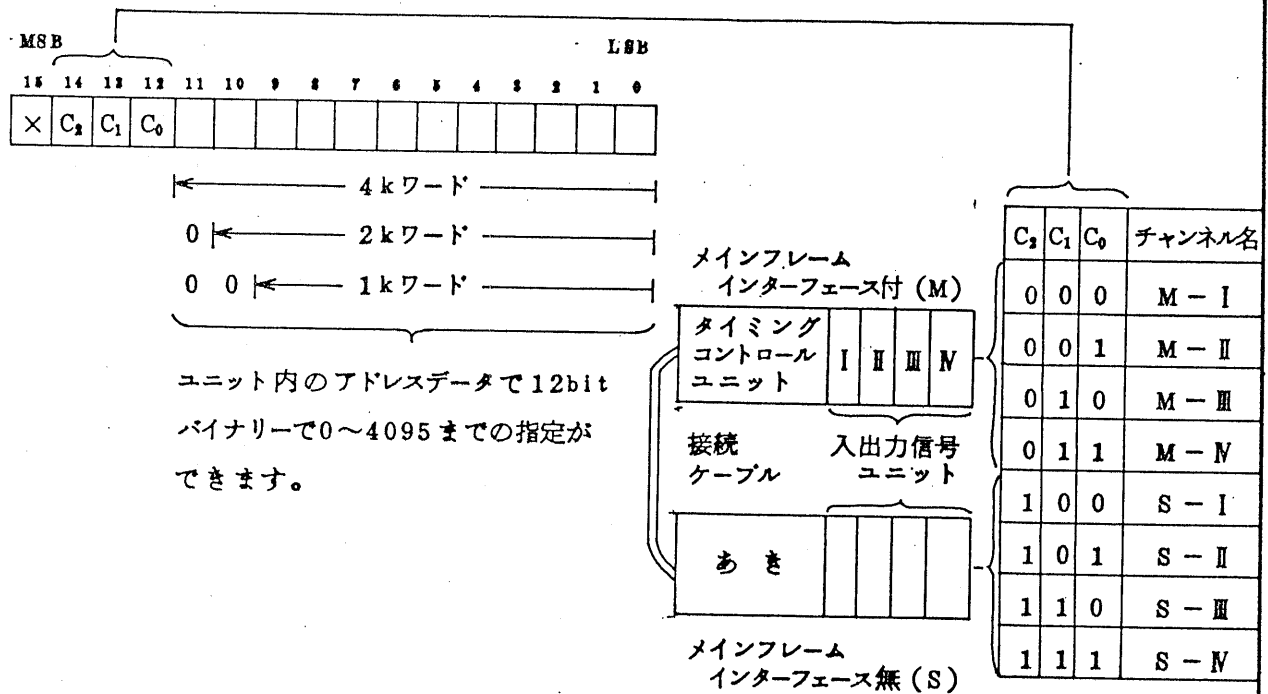
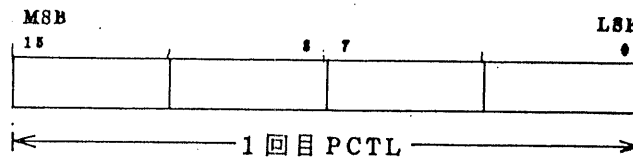
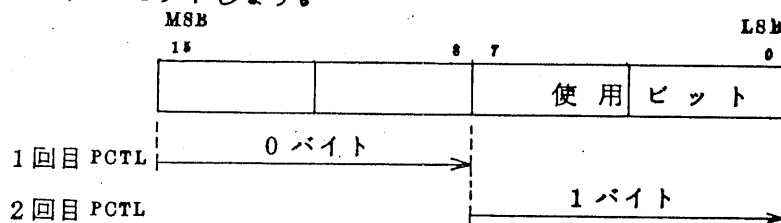
① アドレスデータを他のデータと区別するために I/O 信号を'1' にしコントロール信号CTL 0を'0',CTL 1を'1'にセットします。

② つぎに送出されたデータをPCTLでラッチしてアドレスレジスタにセットします。

③ アドレスデータ上位ビット C_0〜C_2 はユニットおよびメインフレームに対するロケーションの選択用です。

④ ユニット毎のメモリー容量は1k，2k，4kの各ワード長があり，LSB側をそろえてセットしアドレスとします。

⑤ ④のアドレスがスタートアドレスとなりつぎからはデータの読出し，書込みが行われるごとに＋1されます。

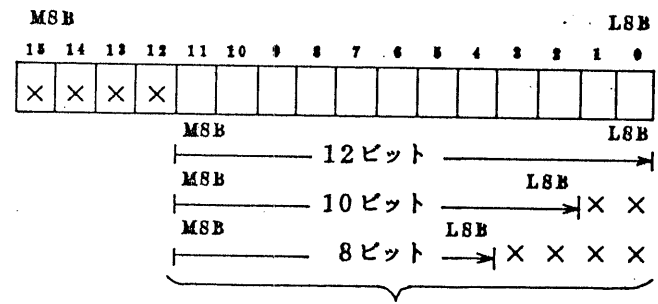
C_2	C_1	C_0	チャンネル名
0	0	0	M－Ⅰ
0	0	1	M－Ⅱ
0	1	0	M－Ⅲ
0	1	1	M－Ⅳ
1	0	0	S－Ⅰ
1	0	1	S－Ⅱ
1	1	0	S－Ⅲ
1	1	1	S－Ⅳ

転送の方法は16ビット（ワード単位）と8ビット（バイト単位）により異なります。

ワード単位の場合は上のように1回目のPCTLによって，アドレスデータをセットします。

バイト単位の転送においては2回のPCTLを繰返えすことにより，0バイト目および1バイト目とによって16ビットのアドレスデータをセットします。

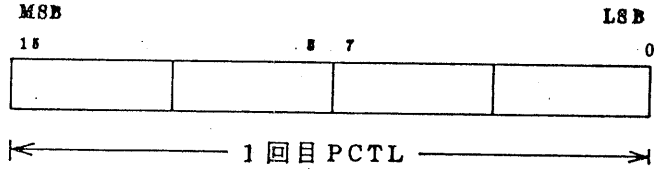
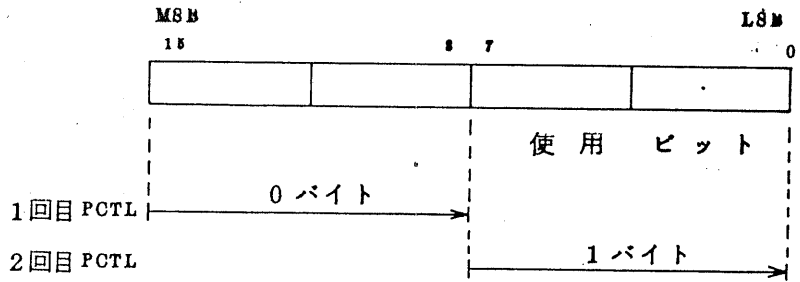
(2) 書込みデータ（DI 0〜DI 15）

コンピュータによりデジタル信号によって波形記憶装置のメモリーに書込みを行う場合はつぎの手順により行います。

① 書込みデータであり，他のデータと区別するため I/O 信号を'1'にしコントロール信号CTL 0を'0'，CTL 1を'0'にセットします。

② つぎに転送されたデータをPCTLでラッチして書込みを行います。

③ 書込みデータの純データ部のビット数は最大 12ビットで，10ビット，8ビット等の場合は MSB 側にそろえてデータの転送を行います。（ビット'11'MSB）入出力信号ユニットのビット数に対応したビットだけが有効で，それ以上多くのビットを転送しても無視されます。

入出力信号ユニットの A/D コンバータのビット数によって，12，10，8の各ビット数があり，ビット'11' をMSBとして転送します。

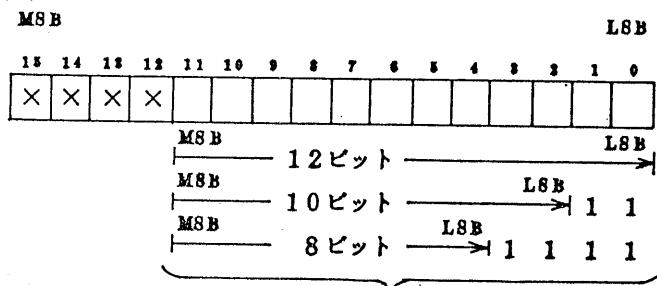
転送の方法は 16ビット（ワード単位）と8ビット（バイト単位）により異なります。

ワード単位の場合は上のように1回目のPCTLによって書込みデータをセットします。

バイト単位の場合は上のように2回のPCTLを繰返えすことにより，0バイト目および1バイト目とによって，16ビットの書込みデータをセットします。なお，データの形式は読出しデータと同じです。

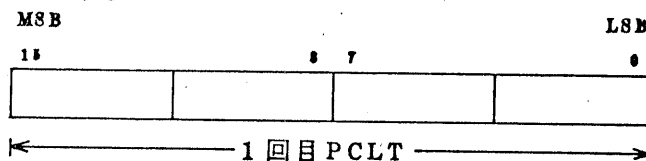
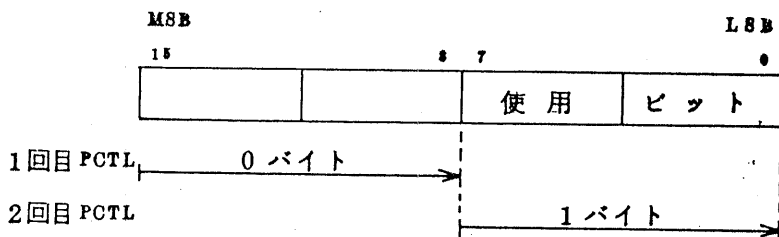
(3) 読出しデータ（DO 0～DO 15）

すでに波形記憶装置に記憶されている記憶データを外部装置へ読出す場合はつぎの手順によって行います。

① I/O信号を'0'にして読出しデータであることを示します。

② PCTL を受け取ってその時，示されていたメインフレーム，チャンネルおよびアドレスの内容のデータを読出してデータバスにのせる。

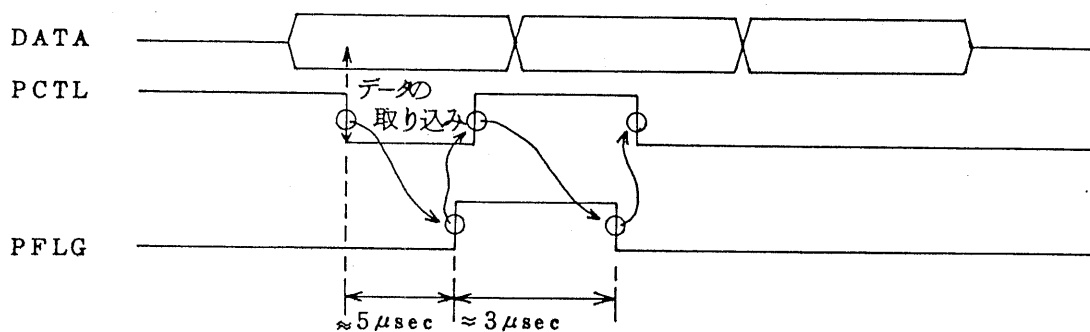
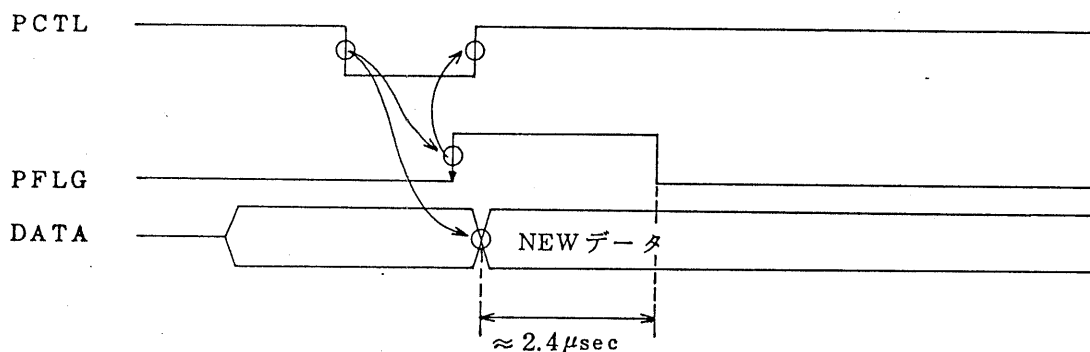
③ 読出しデータの形式は書込みデータと同じであり，ただ純データ部のビット数最大 12 ビットより少ない 10 ビット，8 ビット等の場合はビット'11'に MSB をそろえますが，LSB より下の無効ビットには'1'を立てて送出します。

入出力信号ユニットの A/D コンバータのビット数によって12，10，8の各ビット数があり，ビット'11'をMSBとして送出します。

送出の方法は 16 ビット（ワード単位）と8 ビット（バイト単位）により異なります。

ワード単位の場合は上のように1回目のPCTLによって読出しデータを読出すことができます。

バイト単位の場合は上のように2回のPCTLを繰返えすことにより，0バイト目および1バイト目によって 16 ビットのバスデータの内容を読出すことができます。

(4) コントロール信号

① PCTLとPFLG

PCTLとPFLGを組合わせてデータの転送の同期をとっています。
以下はそのシーケンスを表わしています。

○ データ入力（外部機器→波形記憶装置）

○ データ出力（波形記憶装置→外部機器）

② I/O

I/O信号はデータの入出力をコントロールするコントロールビットであり，'0'のときOUT…出力を示し波形記憶装置よりの読出しデータを外部機器に入力します。

'1'のときはIN…入力を示し外部機器から波形記憶装置へデータを書込みます。

③ CTL0，CTL1

CTL0およびCTL1の2ビットの信号は，その組合せによって波形記憶装置入力データの識別を行っています。組合せと機能はつぎのとおりです。
なお，この信号は次の動作まで，その論理を維持しておいて下さい。

	CTL1	CTL0	機　　能
0	0	0	書込みデータ
1	0	1	予　　備
2	1	0	アドレスデータ
3	1	1	コントロールデータ

(5) ステータス信号 （STI 0，STI 1）

STI 0およびSTI 1のステータス信号は，波形記憶装置がレコード動作中でインターフェースの割込みを禁止するときはSTI 0の状態をチェックしてからアクセスするなど，波形記憶装置の状態を外部に表示するためのビットであり，その組合せによってつぎの4つの状態を示すことができます。

	STL 1	STL 0	機　能
0	−	0	レディー（アクセス可能）
1	−	1	ビジィー（レコード中）
2	1	−	電源　ON
3	0	−	電源　OFF

(6) リセット信号 （PRESET）

外部機器からインターフェース回路をオールリセットにする信号で波形記憶装置の「SYSTEM RESET」には接続されていません。

PRESET 'LOW' ＝ '1' でリセットします。

(7) コントロールデータ

コンピュータや外部の機器から波形記憶装置に特定の信号やデータを転送しますと，波形記憶装置はそのパネル面で手動の操作を行うのと同等のある一部の動作を行えます。

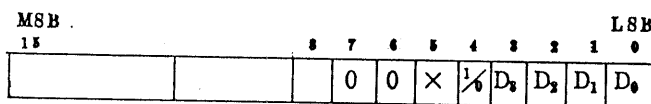
つまり外部機器等から転送された特定のデータを解読してパルス化し，スタート信号等のリモートコントロールを行うことができます。

このようなコントロールデータの転送においては他のデータとの区別のためにCTL 0を'1'，CTL 1を'1'にセットします。

つぎにこれらのコントロールデータについて説明します。

① デバイスセレクト

すべての機器はデバイスNo.という識別コードを持ちインターフェスコネクタの下側にある，「ADDRESS」の4ビットの2進数スイッチでセットし，1～15までの値で互に同じ番号が重複しない様にセットするということは4.1節の④「ADDRESS」で説明しましたが，このデバイスNo.を外部機器から指定するコントロールデータは下記のようになります。

CTL 0 , CTL 1 = (1 , 1)

なお「ADDRESS」スイッチをすべてOFF(0,0,0,0)にしたときは常時選択状態となります。

② リモートコントロール信号

レコードスタート，リードスタート，システムリセット，ワード／バイト EXT・マニュアルトリガー，等のリモートコントロール信号発生について説明します。

以下の図のようなフォーマットのデータとそのD_2～D_0のビットの組合せにより下記の表のように分類されます。

CTL 0 , CTL 1 = (1 , 1)

MSB 15		8	7	6	5	4	3	2	1	0 LSB
			1	0	×	×	×	D_2	D_1	D_0

	D_2	D_1	D_0	機　　能
(a)	0	0	0	バイト指定
(b)	0	0	1	レコードスタート
(c)	0	1	0	リードスタート
(d)	0	1	1	システムリセット
(e)	1	0	0	EXT．マニュアルトリガー
(f)	1	0	1	予　　備
(g)	1	1	0	予　　備
(h)	1	1	1	予　　備

この信号はデバイスセレクトに関係なく全てのデバイスに出力されます。

(a) バイト指定

データの転送を 16 ビットのワード単位で行うか，8 ビットのバイト単位で行うかの選択で，D_2〜D_0 が "0" の場合はバイト指定となります。
またその他はすべてワード単位となります。

(b) レコードスタート

このコントロール信号を受け取りますと，波形記憶装置はタイミングコントロールユニットの「RECORD」スイッチを押したことと同様にレコードスタートのトリガー待ちの状態になります。

この時にトリガー信号を検出すればただちにレコードを開始し，入出力信号ユニットの全メモリー書込み完了で停止します。

RECORD LED ランプも同様に点灯および消灯動作を行います。

(c) リードスタート

このコントロール信号を受け取りますと，波形記憶装置はタイミングコントロールユニット「READ」スイッチを押したことと同様にリードスタートの状態となりただちにパネル面や外部より指定された速度のリードクロックにより連続的に記憶データの読出しを行います。

READ LED ランプも同様に点灯および消灯動作を行います。

(d) システムリセット

このコントロール信号を受け取りますと，波形記憶装置はメインフレームの「SYSTEM RESET」スイッチを押したことと同様にシステムリセット信号を発生して，波形記憶装置内のフリップフロップ回路等を，リセットし装置をイニシャライズ状態にします。

(e) EXT・マニュアル トリガー

このコントロール信号を受け取りますと，波形記憶装置はタイミングコントロールユニットの「MANUAL TRIG」スイッチを押したと同様に TRIG 信号を発生します。

(f), (g), (h) 予 備……その他のオプション

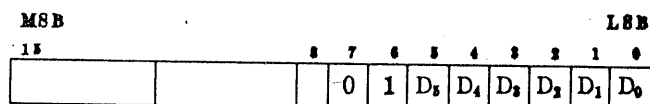
(a)〜(e)以外の(f), (g), (h)は予備としてありますので，オプションのコントロール信号として利用することができます。

③ サンプリング速度の外部リモートコントロール

波形記憶装置のタイミングコントロールユニットにある「SAMPLING」つまみを手動で回して書込みのサンプリング速度を変えたり，「READ」モードの「SAMPL」スイッチを押して「SAMPLING」つまみで 設定したクロック速度で読出しを行ったりする操作を以下の手順によってインターフェースを

介して外部機器からリモートコントロールすることができます。

1) CTL0およびCTL1をともに"1"にセットします。

2) 下記の表から選択した目的のサンプリング速度に対応するD_0～D_4のビットを選んで転送します。

D_5＝"1"の場合のD_0～D_4の組合せ表　(　　)内は高速Bタイプ

D_4	D_3	D_2	D_0=1, D_1=1	D_0=0, D_1=1	D_0=1, D_1=0	D_0=0, D_1=0
1	1	1	1μsec(50nsec)*	2μsec(100nsec)*	5μsec(200nsec)*	――
1	1	0	10μsec(500nsec)	20μsec(1μsec)	50μsec(2μsec)	――
1	0	1	100μsec(5μsec)	200μsec(10μsec)	500μsec(20μsec)	――
1	0	0	1msec(50μsec)	2msec(100μsec)	5msec(200μsec)	――
0	1	1	10msec(500μsec)	20msec(1msec)	50msec(2msec)	――
0	1	0	100msec(5msec)	200msec(10msec)	500msec(20msec)	――
0	0	1	1sec(50msec)	2sec(100msec)	5sec(200msec)	――
0	0	0	――	――	――	EXT CLOCK

注) 高速Bタイプにおいては読出し時の読出しクロックは＊印のすべてにおいて500nsecとなります。

4.6　データ転送のプログラム例（YHP 9825A パーソナルコンピュータの場合）

ここではYHP社のパーソナルコンピュータ9825Aを使用して波形記憶装置との間でデータの転送を行う場合のプログラム例を表わします。

(1)　波形記憶装置のアドレスを指定してデータを書込む場合

```
wtc 2,2   ………コントロール信号CTL1，CTL0を'1'，'0'にしこれを
  ↑              '2'のキャラクタで表わします。……アドレスを示す。
インターフェース
のデバイトNo.(98032A
にセットする。)

wtb C+A   ………チャンネルC，アドレスAを計算しセットします。
wtc 2,0   ………コントロール信号CTL1，CTL0を'0'，'0'にしこれを
                 '0'のキャラクタで表わします。……データを示す。
wtb B     ………書込みデータBをセットします。
```

C，A，Bは別途ルーチンで計算しておきます。

以上の繰返しでアドレスと書込みデータを交互に送ってセットします。

(2)　波形記憶装置のアドレスを指定してデータを読出す場合

```
wtc 2,2   ………コントロール信号CTL1，CTL0を'2'にセットします。
                                                   ……アドレスを示す。
wtb C+A   ………チャンネルC，アドレスAを計算してセットします。
rdb (D)   ………データを読出し，コンピュータのDレジスタにセットします。
```

以上の繰返しでアドレスを指定してデータを取り込みます。

CTL0，CTL1は一度セットされ途中での変更がなければそのままでOKです。

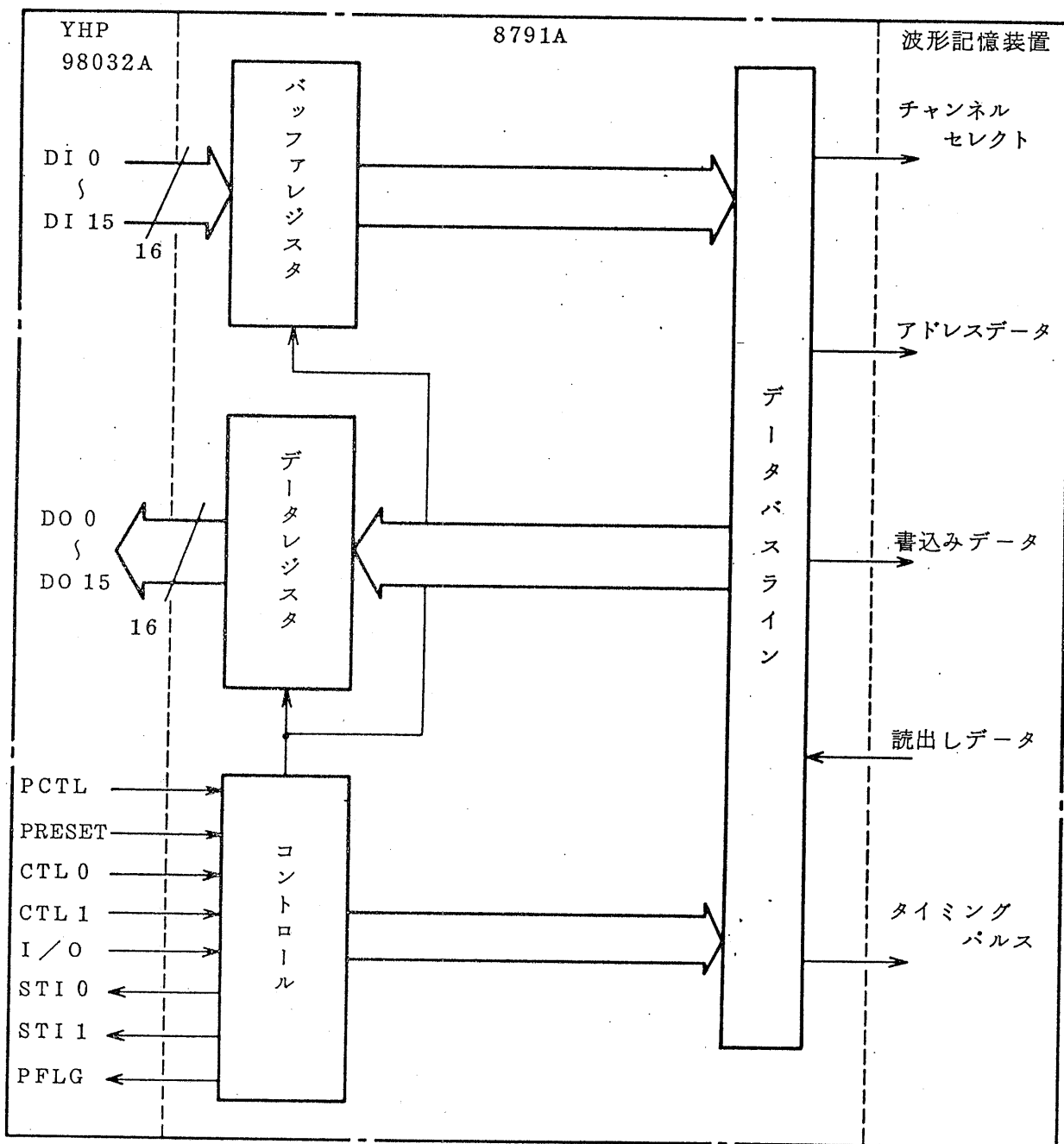
(3)　波形記憶装置のアドレスを逐次選択してデータの書込み，読出しを行う場合。（ランダムアクセス）

```
wtc 2,2  }  初期アドレスのセット
wtb C+A  }
wtc 2,0     以後書込みデータを示す
wtb B1   }
wtb B2   }
  |      }  書込みデータを逐次送る
wtb BN   }
wtc 2,2  }  初期アドレスのセット
wtb C+A  }
rdb (D1)    データの読出し
```

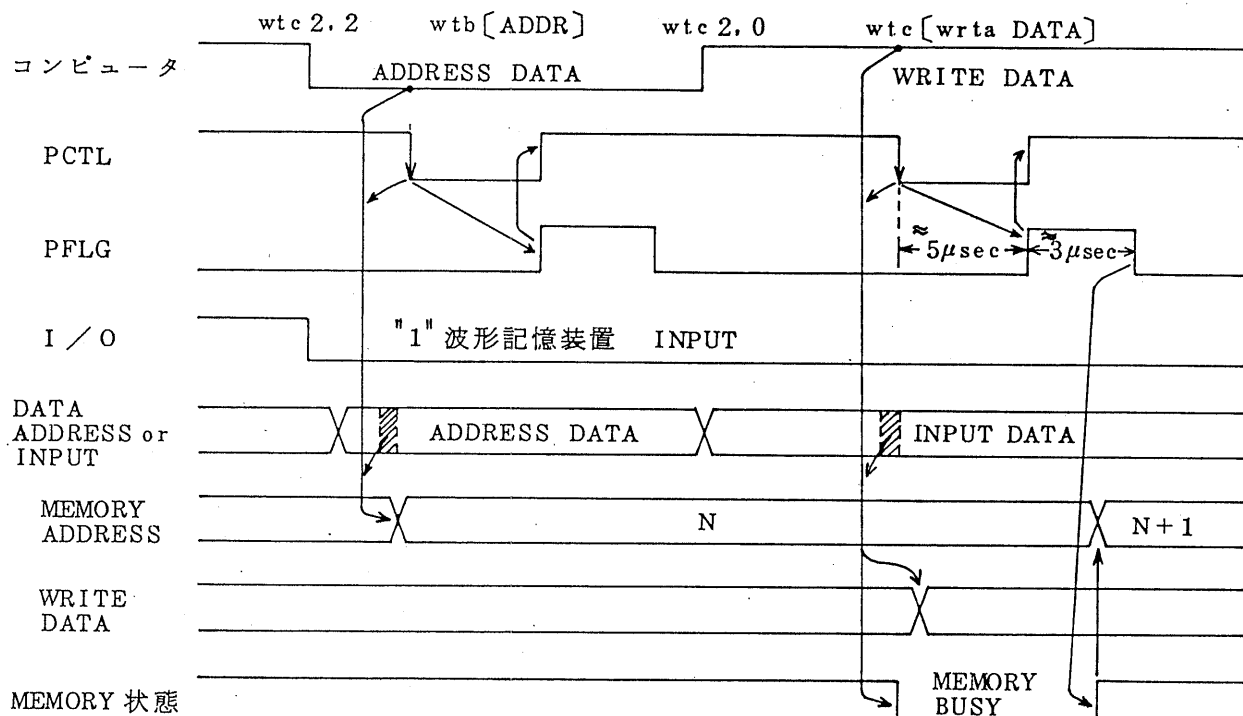
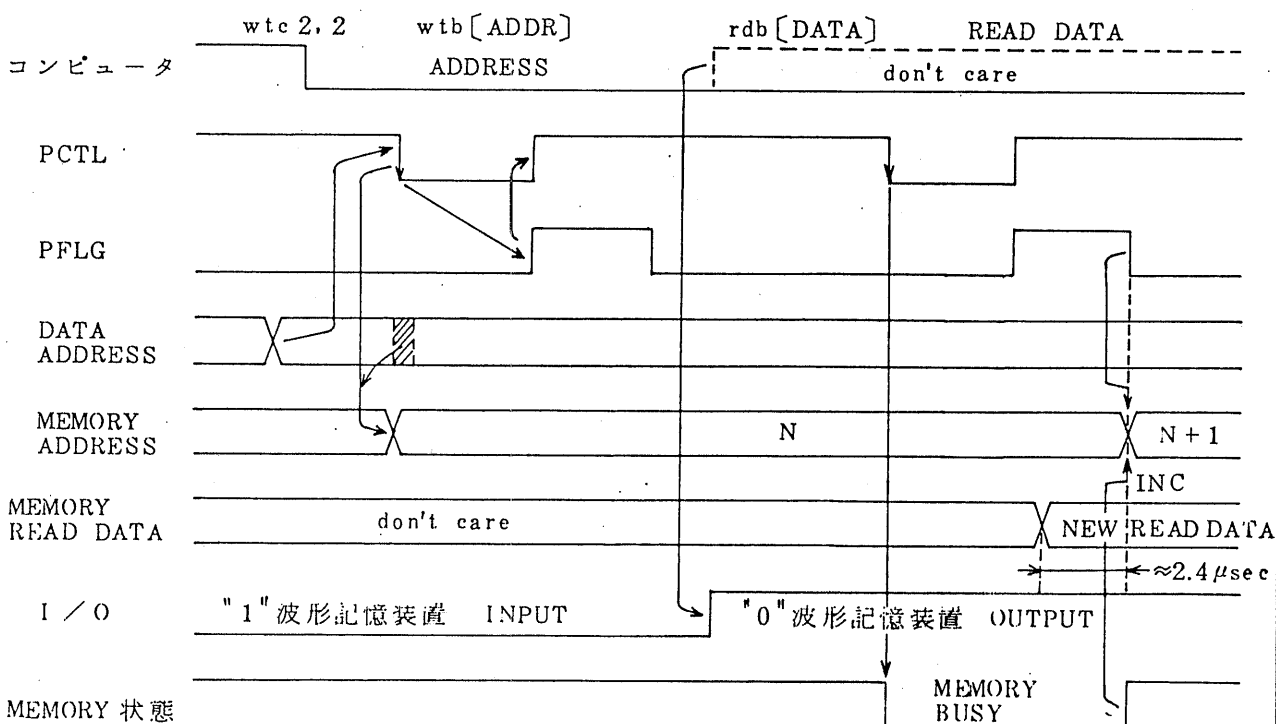
メモリーにデータを書込むかまたは読出す毎にアドレスは＋1されるので，連続的に読み書きする場合はアドレスをその都度セットする必要はありません。

5. 動作原理

本インターフェースアダプタの電気的動作はYHP社 98032A 16ビットI/Oインターフェース仕様に準拠させるためのハンドシェーク動作と，波形記憶装置との間でのデータ等の書込み読出し動作に分類されます。

5.1 ブロックダイヤグラム

5.2　16ビットI/Oインターフェースタイミングシーケンス

ここでは4.6節に準じてコンピュータによりデータを波形記憶装置に書込む場合と，波形記憶装置からデータを読出すタイミングシーケンスを表わします。

(1)　コンピュータから波形記憶装置へデータを書込む場合。

(2)　波形記憶装置のデータを出力しコンピュータに読出す場合。

6. 保　　守

6.1 内部の点検

本インターフェースアダプタがメインフレームに取り付けられている場合は，メインフレームのパワースイッチが OFF になっていることを確認し，4.1 節の⑤～⑧のビスを外しますと，カバーが外れます。

この状態でインターフェースアダプタの内部の点検を行います。

ただインターフェースの基板は2枚ですので，下側の基板の点検を行う場合は8本のビスのうち外側の4本を外しますと，上側の基板を左側に開くことができますので下側の基板の点検が行えます。

つぎにインターフェースの基板をメインフレームから外す場合は他の4本のビスを外せば基板を2枚一度に外すことができます。

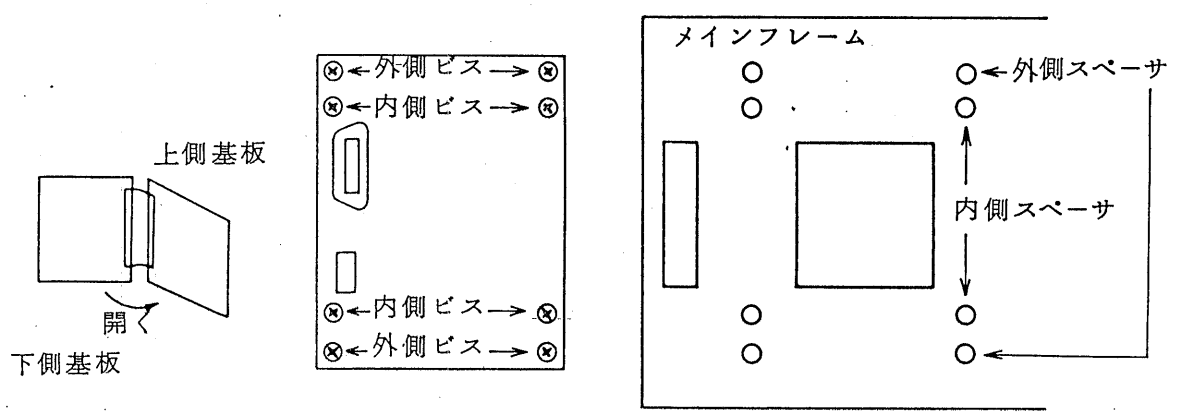
6.2 インターフェースアダプタの取り付け方

本インターフェースアダプタを取り付ける場合は付属の長短各4本のスペーサを用います。

下図のように，メインフレーム後面のタップ穴に長いスペーサーを外側に，短かいスペーサーを内側に取り付けます。

つぎにインターフェース用コネクタを各々指定された場所に接続し，下側の基板にあいている4ヶの穴に，短かいスペーサ4本を通してビスで止めます。

つぎにカバーをかぶせて同じく長いスペーサにより4本のビスで止めます。

この際インターフェース用コネクタのついている配線材を狭さまないように注意してください。

なおインターフェースアダプタを取り外した後はメインフレーム付属のメクラ板でインターフェースコネクタ接続用の穴にふたをしてほこり等が入らないようにしてください。

6.3 修理

本アダプタは入念に組み立て，調整し，厳重な管理のもとに検査，データ取りを行って出荷されたものですが，偶発的な事故あるいは部品の寿命が原因となり，万一故障が生じた場合には当社で修理を行います。

なおセットの落下など取扱い上のミスをのぞき，納入後１年間は無償修理を行っています。